

「文化芸術の自律的で持続的な発展に資する公的な支援の在り方について」概要（令和5年3月）

概要

文化芸術団体の自律的・持続的な発展に資する支援の在り方、進め方を検討し、文化芸術の発展に資する施策を提言。

現状の課題

- (1) 文化芸術団体の**基礎的な情報**が十分に収集・分析されていない
- (2) 文化芸術（団体）の**社会的価値、経済的価値**が可視化されていない
- (3) 文化芸術団体の**運営への支援**が不十分
- (4) 文化芸術団体への助成が**発展のインセンティブ**になりえていない

改善の方向性

(1) 文化芸術団体情報の集約化・可視化

- 基礎的な情報の収集・分析による文化芸術団体情報の可視化
- **補助金の手続きを情報システムで管理**。基礎情報を集約化
- 情報システムへの登録を補助金申請の要件とする
- **財務諸表や労務状況を定点観測**し、文化芸術団体や業界全体の運営能力やコンプライアンス対応の把握・向上を図る
- ロジックモデル等により、**自らの様々な価値を可視化**

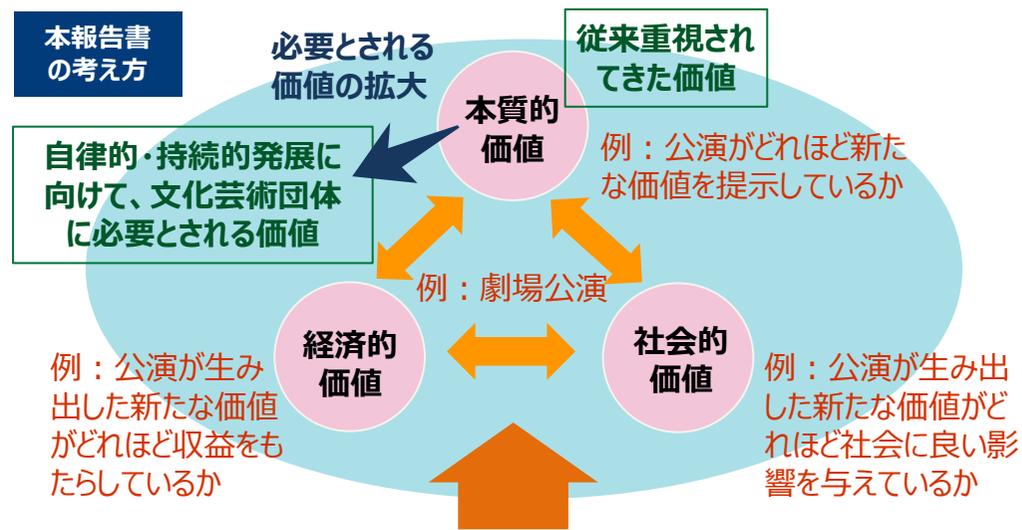
(2) 評価

- 自らのミッション・ビジョンを明確化し、事業計画や活動と結び付け、それらを評価することが重要
- 評価に活用できる**標準的な情報システム**について検討
- 社会的インパクトや運営に係る事項を評価項目に。**自己改革を促進する仕組み**を構築
- 多様なステイクホルダーによる**多角的な評価**を行う手法を検討

(3) 伴走型支援

- 伴走者と対話しながら課題を抽出、団体自らが課題を解決していく手法
- **伴走者は組織や事業の運営実務への知見を有する者／組織**を想定
- 他省庁とも連携して組織や人材の情報を蓄積・共有できる体制を確立
- 令和5年度から**伴走型支援を実証、実効性のある枠組を確立**

本報告書の考え方



文化芸術の自律性・持続性を高める支援

- ・可視化（統計）
- ・客観化（数値化）
- ・伴走型支援
- ・人材育成
- ・調査研究
- ・サポート体制・枠組の整備
- 等

(4) 補助金の配分方法

- 戦略的な**補助金の配分方針**や重点分野の設定を検討
- **文化庁と芸文振の目的の明確化に基づく役割分担**
- 補助金全体で配分率の調整
- **マネジメントの視点から専門性をもって審査できる審査委員、委員選定基準の見直し**を検討
- 組織基盤の強化、**運営改善を支援する補助金**の新設を検討
- 芸文振が、**人材育成やマッチングなどの支援機能を強化**

今後の予定

- R5～ 「文化芸術の自律的運営促進事業」にて伴走型支援等実証
- R5～ 「舞台芸術等総合支援事業」のR6補助金への導入検討
- R5～ 申請及び評価にかかる情報システム改修／導入の検討開始